



じごぜんひろば

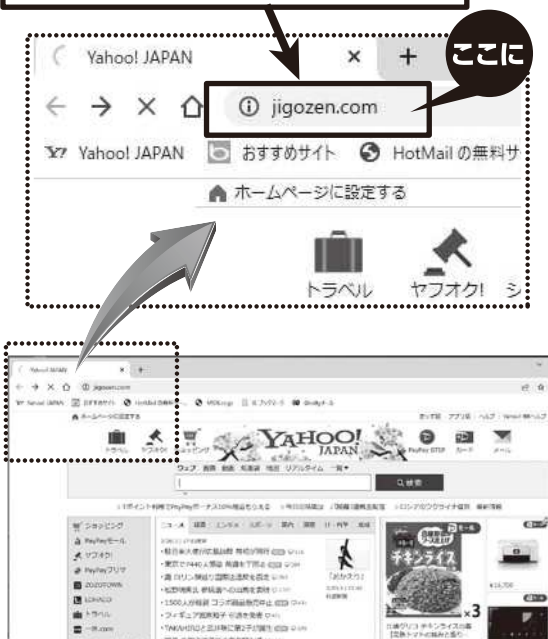
No.106 2022年(令和4年)4月1日

地御前地区自治会



↑地御前地区自治会のトップページ

ブラウザ最上段にあるURL欄に **jigozen.com** と入力すると地御前地区自治会のTOPページが表示されます。



いよいよ公開 地御前地区自治会の Web試運転開始

2年以上に及ぶコロナ禍の影響で、職場ではリモート会議、プライベートではオンライン飲み会など、あらゆる場でのIT活用が一気に世の中に浸透した。自治会でもIT活用の必要性については以前から話題にのぼっていた。コロナ禍で市民センターの利用ができない時期があり、いよいよIT活用の必要性に迫られた。SNSを活用した連絡や情報共有、ZOOM等を活用したオンライン会議などを昨年からはスタートした。

特に「地御前自治会のWeb開設」については、昨年5月から5回にわたってオンラインで意見交換をするなどし、取り組みを進めてきた。市の地域政策課や今年度市職員研修生にも参加を得て、他の市区町村事例など、アイデアを共有した。実際のWeb作成に当たっては企画会社の川西氏によるサポートを得て、どんどん具現化していった。

以前から、各町内会での活動防炎会、郷土文化保存会、長寿会など、多くの行事や祭りが地御前で行われてきたが、まだまだその内容や様子について知られていない。

よりタイムリーに情報発信をして魅力を伝えてゆくことで、子育てや仕事で忙しい現役世代が、いつでも簡単に地元の活動を知って、子育てや家族のレクリエーションなどへの気軽な活用が期待されている。

地区の話題

女性目線の防災活動

自主防災会事務局 佐々木真弓

東北震災から11年、私が自主防災会の活動に参加して10年になる。2019年度に女性目線の防災が何かできないか？まずはコミュニティケーションからだ、と思い、各町内会から1名ずつ参加していた。防炎についての話、防災食の調理、試食をする中で、参加された方々の笑顔につながる事の大切さを感じた。しかし、コロナ禍の中活動が停止し、家の中から何かできないかと女性役員だけでライングループをつくり、ライン会議をして、2021年度は、防災啓蒙のポスターを回覧板と掲示板で募集した。

ところがまったく反応がない。少し残念だった。



町内会長さんにもSNSで依頼したところ、川柳が集まった、どこかで、地域のみなさんに紹介したいと思っていたが年明けよりコロナ感染が拡大し、時間だけが過ぎてしまった。今回あらためて参加者の方々の作品を皆さんに読んでいただき、自分にとっての防災とは何かを考えるきっかけにしたいだけとうれしい。コロナ禍の中でも人と繋がり、「いざまさか」に備えたいものである。

危険箇所 ハザードマップで身を守る

浜の町小池都知事(60代)

災害に 早めの準備 早めの避難
隣り近所も 声かけて
鹿の子(80代)

豪雨度 雨水湛える

田んぼダム

白鳥湖彦(60代)

抜きたいなあ

抜いてはいけない 風呂の水

海晴丘 銭谷佐智子(70代)

声かけて 命つなぐ

まちづくり

浜之町 むさし丸(60代)

第2回 地御前 リレーマラソン



3月21日(月)グリーンフィールドにて、60分間リレー形式で周回数を競う耐久リレーマラソンが行われた。今年も卒業したばかりの地御前小学校6年生(3チーム 計27名)、ハッピーオレンジ(2チーム 計25名)、地御前アスリートチーム(8名)の6チームが参加した。初開催の昨年は、大本命だったアスリートチーム(3名)が多勢に無勢で、終盤に6年生チームに抜かれるというドラマがあった。レースは午前10時にスタートした。ハッピーチームには多くの低学年児童や未就学児もいて、1周200mを一人で走る姿にはとても感心した。

開始30分を過ぎるころからそれは驚きに変わり、応援する大人たちは徐々に彼らを放っておけない気持ちになっていった。飛び入り参加大歓迎だったので、お父さん・お母さんたちもハッピーの走者に加わって助っ人参加をした。6年生チームも後半からは順番通りに走れない児童も出始め、その分を他の人より多く走る児童もいた。教頭先生や担任の先生方も走者に加わって6年生チームを助けた。

結果はアスリートチームが95周で優勝した。何よりも大勢の助け合いで、全チームが60分を走り切ったことが感動だった。

編集後記

★リレーマラソン終盤の場面。長くて苦しくても、一周走ってバトンを渡す仲間が立っていてくれると思うから、自分もバトンを受けて走り出せる。感動の中いろいろな気づきがあった。(J・K)

★ご意見・ご感想・記事の投稿
リクエストなど何でも募集します。
RXE15645@nifty.ne.jp

「発行」 地御前市民センター内
地御前地区自治会 広報事業部

地御前地区自治会役員紹介

前号の執行部、事業部長の自己紹介に続き、他の事業部長の自己紹介を掲載します。自治会に関わるようになったきっかけや地御前への思いなどを投稿していただきました。



地御前地区自治会
福祉事業部長
大庭 敏博

平成19年地御前へ移住し、市民センターのクラブに入会して自治会の方々と知り合い、いろんな行事に参加し、自治会活動をするようになりました。

地御前の多くの方と知り合いになりました。わからないことは親切丁寧に教えてもらっています。

より多くの人と知り合い、自治会行事や地区行事を通じて活発に盛り上げてゆきたいと思っています。

福祉事業部の「さつき会」として一人暮らし高齢者の方に喜んでもらえる弁当選び、汁物の具や味付けに悩みました。「おいしかったよ」と言われたときは大変うれしく、ほっとし、ほかの行事でも「苦労さん」や「ありがとう」の声かけがうれしです。

こちらに移住して何町と言われてもさっぱりわからず戸惑いました。またいろいろ話を聞いて歴史ある町だと知りました。これも「地御前物語」で詳しくわかりました。暖かく迎え入れてもらい感謝しています。



地御前地区自治会
生活安全事業部長
村上 廣美

自治会に関わるようになったのは、町内会長を引き受けた時からでしょうか。その当時は町内会長になると自治会のいずれかの部に入るようになっていました。

前町内会長の後を継いで体育部に入って、数年間運動会などのお手伝いをさせていただきましたが、途中で生活部に移り、現在に至っています。

それから、町づくり5か年計画や地御前の各町内の歴史を先輩方に教えていただきながら多くのことを学び、地域の皆様に安心・安全で住みよい地御前を目指しています。

地御前の良いところは地域の皆様と顔見知りになれたり、大きな災害もなく、徒歩圏内に総合病院や商業施設また防災公園もあり、とても暮らしやすいことです。

これからも地域の一員として出来る限り元気で住み続けていきたいと思っています。



地御前地区自治会
環境衛生事業部長
文野 清

地御前に住んで25年余りになります。当時、家の周囲は田畑も多く、山鳥や少し奥に行くときもいる自然豊かな環境でした。さらに、近所の人々は親切で人情味豊かな方が多く、直ぐに馴染むことができました。また、総会では、若い人からお年寄りまで参加者の多さに驚くとともに、皆さんの繋がりの深さから、地域に対する安心感を覚えました。

また、町内で自治会の活動を熱心にされている方が居られ、自分も影響を受けて自治会に関わるようになりました。自治会に参加して多くの人と知り合い、関わりを持つことができ、自分の住んでいる町、地御前を知ることができたように思います。

今では、多くの家が立ち並び、新たに移り住まれた人、特に若い方が増えてきたように感じます。こうした方々も、無理のない範囲で自治会の活動に参加し、地域を盛り上げて頂きたいと思います。海と山に囲まれた歴史あるこの町が、「花があふれた町」「住みやすい町」地御前になるよう願っております。



地御前地区自治会
青少年事業部長
川口 栄作

いつも皆さんの助けの中で支えられています。自治会に係わるようになったきっかけはPTA役員からです。それから自治会につながってゆきました。

最初はPTA活動の一環として流れに乗って動いていましたが、地域の方や、自治会の人と触れ合うようになって、少しずつ楽しさが分かってゆきました。自分が子どもの頃は地域のつながりが全く無く、コミュニケーションの場がありませんでしたが、今となってはよく人とのコミュニケーションの場ができ、価値感や考え方が少しずつ変わってゆきました。

今後も地域の方達と楽しく同じ時間を共有してゆければと思います。宜しくお願いいたします。感謝。



地御前地区自治会
保健体育事業部長
山中 豊水

今から7年前、町内会長と体育担当を兼任し運動会や他行事に参加した際、「保健体育部がおもしろそうだ」と思い、自分も仲間に入りたく入部したのがきっかけです。

自治会活動をする以前の知人、友人と言えは隣り近所の方々に限られていましたが、自治会活動を通じて友人、知人が広範囲に増え、人との繋がりを感じます。

大きな野望はありませんが、当部も高齢化の問題があり、若いお父さん、お母さんのパワーや新しい考え方で若返りが図れたらと思います。若いお父さん、お母さん、入部お待ちしています。

自治会活動で記憶に残ることとしては、苦い記憶が先に立ちます。やはり、コロナ禍にあり、2年連続して地区運動会中止の決断をしたことです。

地御前に生まれ育った者ではなく、広島市内の会社に就職、結婚後の新居も広島市内。子供が産まれたのを機会に廿日市阿品台に移り住み12年、阿品台から現在の地御前に移り住み29年経ちました。もはや廿日市、地御前が最愛、永住の地です。



地御前地区自治会
広報事業部長
桐林 潤

平成21年に地御前小学校のPTA会長になった時のあて職で青少年事業部の部員になったことがきっかけで自治会運営に関わるようになりました。子どもから大人まで大勢と顔見知りになった方々と自治会の活動だけでなく、お祭りや出先でまたまた出会ったりすることも含めて、日常生活が楽しくなりました。広報事業部に入ったきっかけは、「じごぜんひろば」で昔の地御前をいろいろと紹介した記事が掲載されていたことにとっても興味を持ったことにより「じごぜんひろば」や自治会活動を通じて地御前での新しい視線や視野、人への親愛を深めることができ、余暇の時間がより楽しい意義深いものになっています。

自治会に関わっておられる方々は、皆さんがとても魅力的で、中学生の時のクラブ活動で先輩に抱いた憧れや、受けた刺激に似たものを感じています。少年期、思春期の友達や先輩が自身の人格形成に重要な影響を与えるように、50歳半ばになっても人格形成は終わっていないことを自治会で活躍しておられる先輩方と活動をしていて感じています。

トピックス

市長感謝状授与

令和4年2月17日、廿日市市役所にて「保育行政に対する感謝状」および「公衆衛生向上に寄与する感謝状」が高橋宣昭氏（県営住宅）に授与されました。「保育行政に対する感謝状」は、昭和63年3月15日に地御前保育園に藤応接セット分10万円寄付されたことに対するものです。「公衆衛生向上に寄与する感謝状」は、昭和61年県営住宅初代町内会長時代のまちづくり活動の一環としてEM菌を活用した地御前潮回し水質浄化活動に対するものです。

また、故・井上喜良氏（田屋）、故・井上良宅氏（田屋）にも同様の趣旨で「公衆衛生向上に寄与する感謝状」が贈られました。

澄川選手。西中選手の活躍。全国ベスト16

進徳女子高校が春の高校バレー第74回全日本バレーボール高等学校選手権大会（令和4年1月5日～9日 東京体育館にて）に広島県代表として出場した。



左から 西中さん、吉本会長、澄川さん

チームのレギュラー選手として澄川陽菜さん（自由ヶ丘）、西中詩さん（堀中）が活躍し、進徳女子初の全国ベスト16まで勝ち上がった。今後の活躍への期待も込めて、令和4年2月25日の地御前自治会運営委員会で細則に則り激励金を贈呈した。我が子のクラブ活動の試合を観戦しに行ったことのある親であれば、みなさんが経験していると思うが、スポーツ観戦の興奮や共感、個人やチームの技量や結果だけではない、「選手をよく知っている」という要素が多分にある。地御前地区自治会では、地元地御前の身近なところで頑張っている人にフォーカスして応援してゆきたい。